

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 31 日現在

機関番号：13601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2015

課題番号：26580058

研究課題名(和文)「メタバイオグラフィー」の学際的研究を通じたモダニズム・ポストモダニズム再考

研究課題名(英文) Interdisciplinary Approach to Metabiography in the Context of Modernism and Postmodernism

研究代表者

星 久美子 (HOSHI, Kumiko)

信州大学・人文学部・特任准教授

研究者番号：20572142

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「メタバイオグラフィー」が従来の伝統的な伝記といかに異なるかを考察し、新しい学際的ジャンルとして確立することを主目的とした。研究の結果、二種類の「メタバイオグラフィー」、「伝記についての伝記」と「伝記を書いていく過程を明らかにする伝記」を示した。前者は、ニコラス・A・ルプケ『アレクサンダー・フォン・フンボルト伝』(2008)に代表される。後者の誕生は、リットン・ストレイチーやヴァージニア・ウルフが活躍した20世紀前半のモダニズム期であり、その特徴がポストモダンの「メタバイオグラフィー」および「メタバイオグラフィカル・フィクション」に発展的に継承されていることを論証した。

研究成果の概要(英文)：This study explored how metabiography differed from traditional biography to establish it as a new interdisciplinary genre. Through this study, it has been made clear that there exist two types of metabiography, that is, “biography ABOUT biography” and “biography BEYOND biography.” The first type of metabiography is represented by Nicolaas A. Rupke’s Alexander von Humboldt: A Metabiography (2008). The origin of the second type of metabiography dates back to early 20th century modernist period, when Lytton Strachey’s Eminent Victorians (1918) and Virginia Woolf’s two biographies Orlando (1928) and Flush (1933) were published. Their unique biographical writing not only influenced other biographers such as A. J. A. Symons and Geoff Dyer, but also inspired postmodern writers such as Julian Barnes and A. S. Byatt.

研究分野：英文学

キーワード：メタバイオグラフィー モダニズム ポストモダニズム

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初から現在に至るまで、「メタバイオグラフィー」(metabiography)はオックスフォード英語辞典の最新版にもエントリがない新しい用語である。この用語の初出は、専門書では2005年に出版された*Self-Reflexivity in Literature*に収録されている Ansgar Nünning, “Fictional Metabiographies and Metaautobiographies: Towards a Definition, Typology and Analysis of Self-Reflexive Hybrid Metagenres”、一般書では2008年に出版されたニコラス・A・ルプケ『アレクサンダー・フォン・フンボルト伝』(Nicolaas A. Rupke, *Alexander von Humboldt: A Metabiography* 2008)である。「メタバイオグラフィー」と類似性を有する「メタフィクション」がすでに批評用語として定着し、ポストモダン研究に新たな視座を導入、豊富な研究結果を残しているのに対して、「メタバイオグラフィー」は国内外の研究においてジャンルとして確立していなかった。

また、国内外の文学研究において、科学史、芸術史、および文学の分野における伝記作品を分野横断的に考察した先行研究はなかった。ルプケの『アレクサンダー・フォン・フンボルト伝』は、フンボルトについて過去に書かれた伝記を分析し、それぞれの伝記で表象された「フンボルト」が社会的・文化的構築物であることを明らかにしている。科学史では、ルプケ以前にも、同様の手法で「伝記についての伝記」が数多く書かれている。たとえば、1954年に発表されたヘンリー・ゲルラックの「ラヴォワジエと伝記作家」(Henry Guerlac, “Lavoisier and his biographers” 1954)、ラルフ・コルフの「チャールズ・ダーウィンをめぐる過去と未来の伝記」(Ralph Colp, “Charles Darwin’s past and future biographies” 1989)、ヤン・サップの「グレゴール・メンデルの9つの人生」(Jan Sapp, “The nine lives of Gregor Mendel” 1990)、ジェイムズ・ムーアの『ダーウィン伝説』(James Moore, *The Darwin Legend* 1994)、ルパート・ホルの『18世紀の視点から見たアイザック・ニュートン』(A. Rupert Hall, *Isaac Newton: Eighteenth-Century Perspectives* 1999)など、枚挙にいとまがなく、伝記研究の方法論としてすでに確立している。また、芸術史でも、同様の手法がデイヴィッド・デニスの『ドイツ政治とベートーベン』(David Dennis, *Beethoven and German Politics* 1996)などに見られる。文学の分野では、ルカスタ・ミラーの『ブロンテ神話』(Lucasta Miller, *The Brontë Myth* 2001)に同様の手法が用いられている。

一方で、文学においては、「伝記についての伝記」より先に「伝記を書いていく過程を明らかにする伝記」が誕生しており、その起

源はA・J・A・シモンズの『コルヴォーを探して』(A. J. A. Symonds, *The Quest for Corvo: An Experiment in Biography* 1934)であると推測された。その手法は、ジェフ・ダイヤーの『怒りに任せて: D・H・ロレンスとの格闘』(Geoff Dyer, *Out of Sheer Rage: Wrestling With D.H. Lawrence* 1997)に継承されている。このように、科学史、芸術史、文学にまたがって「メタバイオグラフィー」を研究することによって、文学研究に新しい分野横断研究のあり方を提示することが可能となると考えた。

さらに、「メタバイオグラフィー」の手法がジュリアン・バーズの『フロベールの鸚鵡』(Julian Barnes, *Flaubert’s Parrot* 1984)、A・S・バイアットの『抱擁』(A. S. Byatt, *Possession* 1990)や『伝記作家の物語』(*The Biographer’s Tale* 2000)などのポストモダン小説にも使われているにもかかわらず、これらを「メタバイオグラフィカル・フィクション」(metabiographical fiction)として論じた先行研究は国内外にほとんどなかった。したがって、「メタバイオグラフィカル・フィクション」という見方を導入することによって、ポストモダン小説への新しいアプローチが可能になると考えた。

このように、「メタバイオグラフィー」という観点から考察することによって、モダニズム「を超える」動向としてのポストモダニズムではなく、モダニズム「の次の」段階としてのポストモダニズムという立場に新たな論拠を示すことができると考え、本研究を計画することとなった。

2. 研究の目的

本研究は、従来の伝統的な伝記とは異なる「メタバイオグラフィー」の体系的な研究を通してポストモダニズムとは何かといういまだ明白な答えのない問題に新たな一石を投じることを目的とした。「メタバイオグラフィー」は、文学の分野だけでなく科学史や芸術史の分野で発達しており、非常に学際性が高い。また、「メタバイオグラフィー」は、観察者の視点に基づく世界認識を特徴としている。この2つ—分野横断と観察者の視点に基づく世界認識—は、19世紀後半から20世紀前半にかけて起こったモダニズムの重要な構成要素である。本研究では、分野横断的な「メタバイオグラフィー」研究によって、モダニズム・ポストモダニズムの関係性を再考することを目指して行われた。

3. 研究の方法

本研究は、以下の方法で遂行された。

(1) 文献資料・情報の収集および分析

本研究の着想を得てから文献資料は収集しているが、伝記研究に関する基本的な文献やポストモダニズムに関する文献が十分に

はないため、文献資料の収集を行った。また、伝記研究、とくにライフ・ライティング研究は、国内よりもむしろ国外で盛んに行われているため、口頭発表を行った二回の国際学会（第13回国際D・H・ロレンス学会、King's College Centre for Life-Writing Research 主催の国際学会）および参加したOxford Center for Life-Writing 主催の学会において情報を収集し、文学だけではなく歴史や芸術を専門とする幅広い研究者と意見交換を行った。このように収集した文献資料および情報は、分析の上、計三回の学会での口頭発表（日本英文学会第86回全国大会、第13回国際D・H・ロレンス学会、King's College Centre for Life-Writing Research 主催の国際学会）に反映されている。

(2) 国内・国際学会での口頭発表の原稿執筆および視覚資料の準備、口頭発表、出席者との意見交換

収集した文献資料および情報を元に、一回の国内学会（日本英文学会第86回全国大会）二回の国際学会（第13回国際D・H・ロレンス学会、King's College Centre for Life-Writing Research 主催の国際学会）で口頭発表を行うため、原稿を日本語あるいは英語で執筆し、パワーポイントによる視覚資料を作成した。口頭発表を行い、それに引き続き行われた出席者との意見交換を通して、さらなる知見を得ることができた。

(3) 論文の執筆

第13回国際D・H・ロレンス学会において口頭発表を行ったジェフ・ダイヤーの『怒りに任せて：D・H・ロレンスとの格闘』に関する原稿を英語論文として書き直した。国内のジャーナルに投稿、現在、査読結果待ちの状態である。他のふたつの口頭発表（日本英文学会第86回全国大会で行ったニコラス・A・ルプケの『アレクサンダー・フォン・フンボルト伝』とA・J・A・シモンズ『コルヴォーを求めて』に関する原稿、King's College Centre for Life-Writing Research 主催の国際学会で行ったリットン・ストレイチーとA・J・A・シモンズに関する原稿）に関しても、順次、論文にして国内外のジャーナルに投稿し、発表する予定である。

4. 研究成果

各年度の研究成果は以下の通りである。

(1) 平成26年度

「メタバイオグラフィー」の定義を行い、「メタバイオグラフィー」が<伝記>についての伝記>と<伝記を書いていく過程を明らかにする伝記>の二種類に分類されることを示した。

平成26年5月24日（土）25日（日）に北海道大学札幌キャンパスにて開催された日本英文学会第86回全国大会において、<

伝記>についての伝記>を代表するニコラス・A・ルプケの『アレクサンダー・フォン・フンボルト伝』(2008)と<伝記を書いていく過程を明らかにする伝記>の原点と考えられるA・J・A・シモンズの『コルヴォーを求めて』(1934)を考察し、口頭発表を行った。発表内容は、大会の紀要（プロシーディングズ）に投稿した。

平成26年6月23日（月）から27日（金）にイタリアのガルダ湖畔で行われた第13回国際D・H・ロレンス学会において、<伝記を書いていく過程を明らかにする伝記>という観点からジェフ・ダイヤーの『怒りに任せて：D・H・ロレンスとの格闘』を考察し、口頭発表を行った。発表原稿を論文として書き直し、国内のジャーナルに投稿、現在、査読結果待ちの状態である。

(2) 平成27年度

平成27年5月21日（木）から23日（土）にイギリスのKing's College Centre for Life-Writing Research 主催の国際学会において、「新しい伝記」を創始したリットン・ストレイチーに第一次世界大戦が及ぼした影響という観点から口頭発表を行った。本研究では、「メタバイオグラフィー」の誕生が20世紀初頭、とくにリットン・ストレイチーやヴァージニア・ウルフなどが活躍したモダニズムの時期であることを論証すると同時に、モダニズムの時期に書かれた「メタバイオグラフィー」の特徴がポストモダンの「メタバイオグラフィー」に発展的に継承されていることを示した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計3件）

Kumiko Hoshi, "A. J. A. Symons' *The Quest for Corvo: The Origin of Metabiography*", The International Conference "Aftermath: the Cultural Legacies of World War I", 2015年5月22日、King's College（ロンドン、イギリス）

Kumiko Hoshi, "Reading Geoff Dyer's *Out of Sheer Rage: Wrestling with D. H. Lawrence as a Metabiography*", The 13th International D. H. Lawrence Conference, 2014年6月25日、（ガルニャーノ、イタリア）

星久美子、「『メタバイオグラフィー』とはなにか：ニコラス・A・ルプケ『アレクサンダー・フォン・フンボルト伝』(2008)とA・J・A・シモンズ『コルヴォーを求めて』(1934)を中心に」、日本英文学会第86回全国大会、2014年5月25日、北海道大学札幌キャンパス

6 . 研究組織

(1)研究代表者

星 久美子 (HOSHI, Kumiko)

信州大学・人文学部・特任准教授

研究者番号：20572142